



## 「豊橋・学校いのちの日」に込められた思いを忘れずに



～かけがえのない、たった一つの命～



2010年、野外活動中の事故で市内中学校1年生の尊い命が失われました。今年で12年を迎えます。本当ならば自分のやりたいことを見つけ、まだまだ人生を歩んでいるはずだったのに…。ご家族も「どんなに願っても子どもは帰ってきてくれない」と悲しみや苦しみを抱えられたままです。けっして忘れてはいけないできごとです。

このような悲しいできごとが二度と起こらないようにという思いから、豊橋市では命日である6月18日を毎年「豊橋・学校いのちの日」とし、「命」について考える日としています。

私たちの身近にも、病気や交通事故、事件などで命を失われる方がいます。世界へ目を向けてみても、自然災害や戦争、食糧危機などで命を落とされる方がいます。誰もが死んでしまうなんて思わなかったのに…。まだまだ生きたかったのに…。そして、周りでは大きな悲しみが…。

今年3月、豊岡校区にお住まいの方が校長室を訪れました。3人のお子さんは豊岡中を卒業され、ご結婚、ご出産と幸せな日々を過ごしていました。しかし、昨年3月、長女が不治の病で他界されました。

その方は、娘さんを失ったことと、近年自ら命を絶つ若者が多く、いじめや痛ましい事件が増えていることを憂い、ぜひ豊岡中の子どもたちや先生たちに読んでほしいと『子どものための「いのちの授業」小児がんの亡き娘が教えてくれたこと(鈴木中人さん著)』を手渡ししてくださいました。

著者の鈴木中人さんは、長女の恵子さんを小児がんのため、わずか小学校1年生、6歳という若さで亡くしました。その後中人さんは、恵子さんの死を意味あるものにしたいと、全国の小中学校、高校、大学、看護学校、企業などでお話しされ、一冊の本にまとめられたのです。

今後、ここに書かれていることはみなさんにも紹介したいと思います。

改めて命の大切さ、尊さが実感できるでしょう。あなたの、仲間の、家族の、すべてのかけがえのない命を大切にしてください。